

# おおのち

第137号

2014年10月20日発行

TEL 0193-42-2111

FAX 0193-42-3855

発行 大槌町議会

## 議会報



さいごまで、ファイト！！  
(安渡保育所 運動会)

決算特別委員会の内容

②～③

審議された議案

議会のうごき

④～⑤

一般質問の内容

⑥～⑪

組合議会報告

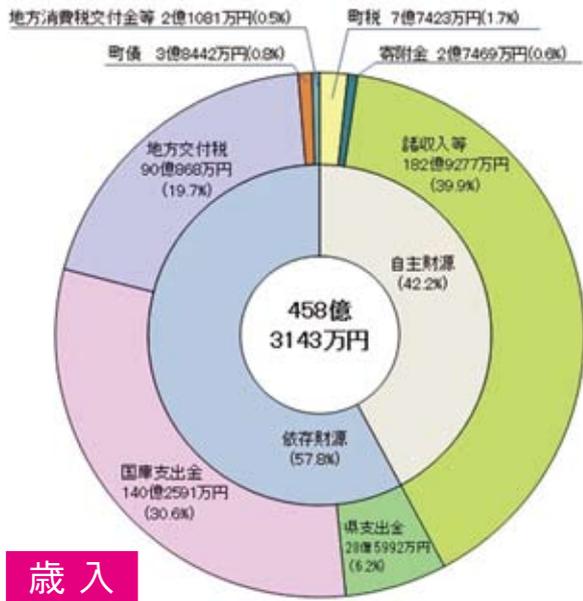
幼稚園児との交流

⑫

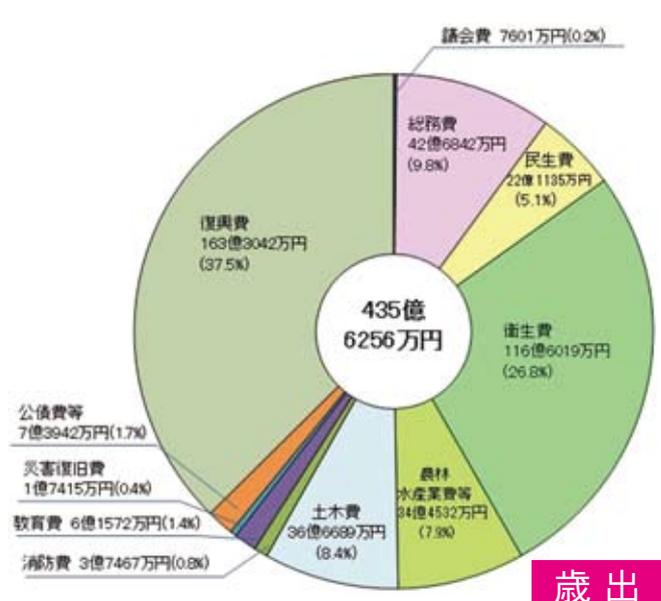
# 附帯意見書を提出

## 決算を審議

### 一般会計決算の内訳



歳入



歳出

### ◆決算特別委員会 — \*

決算特別委員会は、9月12日から18日までの日程で開催されました。委員長には東梅康悦議員、副委員長には三浦諭議員を選出し、本会議で付託された平成25年度一般会計歳入歳出決算など8会計について審査しました。定住促進住宅使用料の不明金等の問題を受け、決算特別委員会から附帯意見書が提出されました。

決算特別委員会での審査終了後、本会議を再開して、採決の結果、平成25年度の一般会計歳入歳出決算など8会計歳入歳出決算は、いずれも原案のとおり認定となりました。以下、決算特別委員会における質疑の一部を紹介します。

### 歳入

◎質疑：定住促進住宅使用料の不明金について、1月にも不適切処理があったにもかかわらず、なぜ担当を変えずに同じ職員に担当させたのか。

◎答弁：人事異動というよりも、内部で複数での検査を徹底するなど体制づくりを行った。

◎質疑：使用料の徴収ミスが続いている。上層部の任命責任をどう考えるか。

◎答弁：管理不行届きの部分が多々見られる。今後、不祥事が起きることのないよう、意識改革を

含めながらコンプライアンスの指導を徹底していく。責任の重さについては町長をはじめ、副町長管理職においても重く受け止めている。この場を借りて、改めてお詫びする。

◎質疑：刑事事件と民事事件のどちらで解決しようとしているのか。

◎答弁：第三者調査委員会の調査結果に基づいて、告訴が妥当なものであるかどうか状況を確認しながら対応していく。

◎質疑：被災者支援町民バスの利用実績と利用者

### 総務費

◎答弁：平成25年度の実績では延べ6万2073名が利用した。昨年度に利用料金を見直したこともあり、今年度の利用者は増加している。

### 民生費

◎質疑：老人クラブ育成事業について、公用バスの利用は可能か。

◎答弁：公用バスでの送迎等を行っている。現在は、保険などの関係から公共的な行事に限っているが、公用バスの運用について今後さらに検討していきたい。

# 決算特別委員会より

## 平成 25 年度

### 衛生費

◎質疑：感染症予防費の委託料に多額の不用額が生じているがその原因は。 ◎答弁：接種率が少ない種類の予防接種もあり不用額が生じたものである。

◎質疑：予防接種の周知方法は。 ◎答弁：予防接種には任意のものとの定期的に必ず接種していただくものがある。対象者へ個別に日時等を案内している。

### 労働費

◎質疑：震災等緊急雇用対応事業を利用している団体はどのくらいか。 ◎答弁：平成25年度の実績は7団体で雇用人数は全体で75名。うち、69名が新規雇用となっている。

### 農林水産業費

◎質疑：食害対策事業について、対象者へ電気柵が行き渡るのはいくらか。 ◎答弁：平成25年度は金澤地区の整備を進めてい

る。今後は事業費を大きくしながら範囲を広げていきたい。

◎質疑：大槌河川漁業協同組合補助金決算額の減額理由と今後の考え方は。 ◎答弁：震災後、河川組合で組合費を徴収できないことから、その補填分も含めていたが、県から補助金が出たことから、組合と相談のうえ震災前の額に戻した。

### 商工費

◎質疑：負担金、補助及び交付金の不用額の発生理由は。 ◎答弁：中小企業融資保証料補給金等の最終的な融資実績が見込みを下まわったものである。

### 土木費

◎質疑：都市計画マスタープランについて、まちづくり復興協議会で議論された内容が反映されているのか。 ◎答弁：あくまでも都市計画の基本となる方向性を定めるものであり、詳

細は住民とともに個別に計画をたてていきたい。

◎質疑：定住促進住宅維持管理業務について、委託の内容と今後の対応は。 ◎答弁：平成25年度は、4月から9月は指定管理者、10月から3月は業務委託として管理業務をしていた。今後の対応として、しばらくは直営だが、後に指定管理へ移行したいと考えている。

### 教育費

◎質疑：相撲場や弓道場が住宅の再建用地となっているが、施設の代替場所は決まっているのか。 ◎答弁：住宅の再建用地については、今年の末頃に町民へ意向調査を行う予定であり、調査結果により団地を計画することとなった場合には、代替施設として新町の仮設グラウンドの隣接地に計画できるか検討している。

### 復興費

◎質疑：用地取得関連支援業務委託の内容は。

## ◆政務活動費◆

Q. 政務活動費はいくらもらっているの？  
A. 政務活動費とは、議員へ調査研究等の活動のために支給される費用のことであり、各自治体の条例により定められています。岩手県内の報酬と政務活動費の支給状況は下記のとおりです。

- \* 大槌町議会  
報酬(議員):月額 192,000円 政務活動費:なし
- \* 山田町議会  
報酬(議員):月額 216,000円 政務活動費:なし
- \* 釜石市議会  
報酬(議員):月額 313,000円  
政務活動費:会派に支給(所属議員数 × 月額 12,500円)
- \* 岩手県議会  
報酬(議員):月額 770,000円 政務活動費:月額 310,000円

### 議会を傍聴しませんか

12月定例会は12月5日(金)開会予定です。

議会の様子は「おおチャンネル」でもご覧になれます。

予定は変更される場合があります。詳しくはお問い合わせください。

第3回定例会

一般質問に6議員が登壇

平成26年第3回定例会は、9月5日から18日までの14日間の会期で開催されました。今期定例会には、「大槌町障がい福祉プラン（基本計画）」策定に係る報告、大槌町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定、大槌町産業集積地の使用等に関する条例の制定、大槌町ひとり親家庭医療費給付条例の一部を改正する条例、工事請負契約の締結、平成26年度の各会計の補正予算及び平成25年度の各会計の歳入歳出決算の認定など報告3件、議案25件、認定8件が提案されました。また、一般質問には6議員が登壇し、町当局の姿勢や施策をただしました。

議案

◎大槌町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定：子ども・子育て支援法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、児童福祉法が改正されることから、改正に基づき所要の事項を定めるものです。（全員賛成・原案可決）

施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定：子ども・子育て支援法の施行に伴い、所要の事項を定めるものです。（全員賛成・原案可決）

◎大槌町地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例の制定：建築基準法第68条の2第1項の規定による条例を定め、地区計画区域内の建築物の用途の制限に係る所要の事項を定めるものです。（全員賛成・原案可決）

◎財産の取得：大ケ口二丁目地区災害公営住宅の23戸及びその附帯施設を5億8680万1944円で取得しようとするものです。（全員賛成・原案可決）

◎平成26年度大槌町一般会計補正予算（第5号）を定めること：防災集団移転促進事業用地測量等業務委託、水産業共同利用施設復旧支援事業、古廟線外水路側溝改修工事等及び斎場整備基本計画策定業務委託等により補正し、歳入歳出予算に6億5929万2千円を追加し、予算の総額を54

◎大槌町特定教育・保育

営を図るため、使用等に

◎大槌町有線テレビジョン放送施設の設置及び管

◎財産の処分：岩手県が

実施する大槌町屋敷前地区災害公営住宅整備事業の用に供するため町有地を1億9637万2794円で処分するものです。（全員賛成・原案可決）

◎工事請負契約の締結：さけますふ化施設整備工事について、消費税率の改定に伴い消費税相当額の変更を行うものです。また、ふ化施設における事故防止及び作業効率の向上を図るため、フェンスの設置や構内舗装等の外構工事を増工するものです。（全員賛成・原案可決）

議会の動き

（7月）

Table with 2 columns: Date and Meeting Content. Includes dates from 2 to 30 and various council activities like committee meetings and reports.





小松 則明 議員

これからの応急仮設住宅の対応は

法の制約はあるが可能な限り対応したい

【問】復興まちづくりの見通しは少しずつ見えてきたが、この町に住む町民は生活していけるのか、町が存続していける財政を伴っているのか心配している。今後、当町の存続をどのように考え、町民をどこに導こうとしているのか。

【答】（碓川町長）復興基本計画に基づき復興事業の推進を図り、町民の皆様が安心して生活できる環境づくりや復興後を見据えた中期財政見直しを立てながら財政運営に取り組み、特に将来を担う子供たちが安心して暮らすことができるよう進め、企業誘致をはじめ、町内での起業の促進に努め、郷土愛に満ちた心豊かな生活ができるよう大槌町を築いていく。

【問】災害時等の町民への情報提供の手段や方法について議会の場でも議論してきたが、震災から三年以上経った今でも結論には至っていない。今後の防災無線等の在り方について当局の考えは。

【答】（内城総合政策部長）行政と民間との連携による効果的な情報発信の方法について研究会を設置し、より良い情報発信の在り方を探っていく。また、国に対して当町におけるラジオ放送の果たす役割を強く訴え、今後は災害FMとしてのさらなる運営の延長も含めて考えていく。

【問】災害時等の町民への情報提供の手段や方法について議会の場でも議論してきたが、震災から三年以上経った今でも結論には至っていない。今後の防災無線等の在り方について当局の考えは。

【答】（佐々木民生部長）災害救助法の制約により全てには応えられない状況ではあるが、可能な限り要望に対応したい。

【問】災害救助法とは困っている人たちを助ける法律ではないのか。

【答】（佐々木民生部長）町の住環境が厳しいことを国や県に強く要望していく。

【問】町内では盛土工事が進んでいるが、広島

石流という局地的な豪雨による悲惨な事態が起き、我が町の盛土も真砂土と聞き心配の声を寄せられている。安全だとの回答がほしいが、この議場でお答え願いたい。

【答】（那須復興局長）真砂土と岩砕材料を一つで混合し宅地地盤を作り上げる。完成後は地耐力の確認を実施予定であり安全性には問題ないと思っている。何かあった場合は町が責任を持つ。

【問】町内では盛土工事が進んでいるが、広島

盛土（コンクリート）

議席番号	議員氏名	第3回定例会 (9/5～9/18)		第5～6回 臨時会	
		出席	欠席	出席	欠席
1	三浦 諭	6	0	2	0
2	芳賀 潤	6	0	2	0
3	東梅 守	6	0	2	0
5	阿部俊作	6	0	2	0
6	東梅康悦	6	0	2	0
7	小松則明	6	0	2	0
8	里舘裕子	6	0	2	0
9	金崎悟朗	6	0	2	0
10	後藤高明	6	0	2	0
11	岩崎松生	6	0	2	0
12	野崎重太	6	0	2	0
13	阿部義正	6	0	2	0
14	阿部六平	6	0	2	0

# 町の収入増を図るための対策は

## 定住・交流人口の拡大を図っていく



東梅 守 議員

### 防潮堤について

【問】水門や防潮堤の詳細設計が決定したら説明会を開催してほしいとお願ひしていたが、まだ決定していないのか。

【答】（那須復興局長）

水門防潮堤については、9月17日に行われる町方地域、小枕・仲松地域復興まちづくり懇談会において、県土木部より説明があると同っている。今回の工事の全体計画規模が膨大であることや、工事の施工展開が用地買収の進捗状況に大きく影響されるなどのことから、全体の詳細設計が確定した時点で住民説明を行う

こととしてきたため、前回の県の説明から少し期間が開いてしまった。

【問】防潮堤の形状が台形に変わったことから、津波シミュレーションを再度行うとのことであったが、いつ頃決定し、公表するのか。

【答】（那須復興局長）津波シミュレーションについては、復興まちづくりの整備と合わせ、避難計画を検討するために、最悪の状況下を想定したシミュレーションを行っているものであり、水門や防潮堤等の復興まちづくりが全て完了している状況下での想定である。

結果は、津波避難計画及び地域防災計画に反映され、防災意識を高めるため、取りまとめ次第（11月頃）、住民の方々に公開していく。

### 財政の見通しについて

【問】町の収入が震災前と比較し、大きく減少しているが、今後の収入増を図るための対策は。

【答】（内城総合政策部長）

震災による人口減少や事業者の減少などにより、震災前の平成22年度決算において、約10億6千万円であった町税収入は、震災後の平成23年度では約5億8百万円と大幅に減少し、昨年の平成25年度決算において、約7億7千万円まで回復はしたものの、依然として震災前よりも低い状況となっている。復興後の持続可能な町政運営を考えるうえでも、歳出の適正化と歳入確保を図るため、民間事業所の再生、人材育

成、農林水産業の6次産業化、観光の強化、定住・交流人口の拡大につながる施策を実施し、歳入確保に取り組んでいく。

### 定住促進住宅の不明金について

【問】毎月入る公営住宅の家賃収入をなぜチェックできなかったのか。

【答】（碓川町長）

8月16日に設置した第三者調査委員会において調査、検証を行っており、最終報告において解明されるものと思っているが、震災による職務遂行の困難性、人事管理、指導監督体制の不備、不徹底が根底にあったと考える。

【問】担当職員は事故発覚後、派遣元から処分を課せられているが、当局としての責任は。

【答】（平野総務部長）

調査委員会の結果を待ち、厳正に処分していく。

### 雇用対策について

【問】今現在、管内事業所では、人手不足が問題となっている。新規誘致企業の雇用確保状況と今後の雇用対策は。

【答】（大釜産業振興部長）

大槌町では、震災後5社の新規企業と立地協定を締結し、すでに1社が操業したが、人員確保には相当の時間を要したと同っている。今後操業予定の4社では95名を雇用予定であり、人員確保が課題の一つと思われる。

また、既存の事業所でも慢性的な労働力不足であり、ハローワークや関係機関と連携し、地域の就労可能な労働力の掘り起こしや地元企業への就職促進に向けた高校生等のインターンシップの協力支援、インターン、Uターンを含めた町外からの労働力確保など、雇用課題の解決に向けたきめ細やかな対策を進めていきたい。



芳賀 潤 議員

# 町が買い上げた土地の今後の利用計画は

## 民間事業者等の積極的な活用を整えていく

【問】町政3年の評価と今後の課題について

【答】(碓川町長) 碓川町政3年の評価と今後の課題について

【問】町内各地で災害公営住宅建設や防集団地の工事が着手され、本格的に復興事業が動き出した。しかし、その一方で計画提示にとどまり、具体的な計画が見えていない地区もある。町政全般における町長の評価と今後の課題、計画は。

【答】(碓川町長) 地域復興協議会などの開催を通じて、町民の声を反映した安全なまちづくりを進めている。また、粘り強い要望活動が国政を動かし一定の成果が生まれたと考える。希望に

満ち溢れた町を築くため、復興事業の加速化を図るとともに、住みよい町とするための医療福祉及びコミュニティ施策の充実や人口減少問題への対応など、様々な課題に積極的に取り組んでいく。

【問】各地域の防集団地の確保と募集状況は。

【答】(那須復興局長)

	取得率
町方、小枕・伸松	66%
安渡	17%
赤浜	57%
吉里吉里	100%
浪板	100%

7月末現在の状況

募集状況は、1月には町方、小枕・伸松地域の

15区画と吉里吉里地域の2区画、計17区画を募集しており、決定していない区画については、随時募集を受け付けている。

6月には吉里吉里地域の64区画と浪板地域の11区画、計75区画を募集し、現時点では、募集した92区画のうち、71区画が決定し、決定していない区画は一体的に二次募集したいと考えている。

【問】町内全域を対象とした募集の考え方は。

【答】(那須復興局長)

計画が固まりつつあるので年内を目標に、浪板、吉里吉里地域を除く町内全域の各地区で、個別相

談を行いながら防集団地の仮申込みを行いたいと考えている。その中で町内全域に拡げた募集の在り方についても検討する。

### 産業振興(こころ)

【問】復興関連事業において、町が買い上げた土地の利用について一定の制限があったが、その土地利用についての今後の町の考え方と、それを実行に移す時期は。

【答】(那須復興局長)

移転促進区域を含む町方と安渡について、産業集積を進め、町内外の事業者の立地を促している。産業用地としての使用開

始は被災3県で初となる。しかし、それ以外の災害危険区域については、未だ跡地利用が定まっていない。災害危険区域の跡地利用は大きなテーマであるため、今後においては、各地域の用地取得状況も踏まえ、民間事業者等の積極的な活用を図られるよう手続きを整えるとともに、跡地利用の推進を関係機関と調整していきたい。

### 防災計画について

【問】福祉避難所の協定締結内容の見直しを図らなければならぬと考えるが、未だなされていない。今後の取り組みは。

【問】被災した消防屯所等の再建計画は。

	建設予定地
消防団本部	旧大槌中学校一角町有地
1分団 1部	寺野地区(防集事業に併せて)
2部	大ケ口2丁目私有地
3部	役場庁舎付近
2分団 1・2部	旧安渡小学校プール跡地
3部	(検討中)
3分団 1・2部	吉里吉里地区新国道ルート角地
3部	浪板地区嵩上宅地の一角

# 大雨等への取り組みは

## 新たなハザードマップを全戸配付



東梅 康悦 議員

【問】副町長3人制及び部局制の体制を敷いても、

【答】（平野総務部長）  
調査委員会において8月16日から24日の間、職員及び関係者から聞き取り調査を実施した。その期間中に担当者であった職員から聞き取り調査を実施予定であったが、入院中であり調査ができないことから、本定例会会期中の最終報告は難しい。

【問】9月中旬に第三者調査委員会の最終報告の予定であるが、9月議会の会期中に出せないか。

定住促進住宅使用料の不明金について



定住促進住宅

【答】（平野総務部長）  
平常時における事務のチェックに目が行き届かない面があったと考えている。調査委員会において、人事管理、指導管理体制に関し調査、検証されているので、報告書を注視したい。

早期の問題把握ができなかったことへの認識は。



小鍬川の様子

【問】土砂災害危険区域における住民への周知状況と今までの対策は。

【答】（平野総務部長）  
町内には土石流警戒区域13箇所、急傾斜地の崩壊警戒区域39箇所が指定されている。過去に「洪水土砂災害ハザードマップ」を作成し全戸配付した。大雨警報等が発表された場合、中央公民館を避難所として開設し、防災行政無線などを利用して住民の方々に周知をしている。今後は新たに洪水・土砂災害ハザードマップを作成し全戸配付

【問】土砂災害危険区域における住民への周知状況と今までの対策は。

大雨等への取り組みについて

【問】大槌川、小鍬川に合流する沢の土砂等の堆積

【答】（那須復興局長）  
今年5月に振興局土木部に大槌川、小鍬川の浚渫等の要望、確認を行った。どちらの川も河道内に土砂の堆積が見込まれる。大槌第16地割付近の大槌川左岸では築堤工事に向けた測量設計を、桜木町付近の小鍬川では10月以降に河道掘削工事をを行う予定である。

【問】県管理の大槌川、小鍬川の洪水対策と河川管理の県との協議は。

のうえ周知を図っていく。

【答】（那須復興局長）  
町が管理する河川は定期的に点検を実施し、優先順位を決めて堆積した土砂等の除去を行っている。今年度は沢山沢川の町営住宅付近の護岸工事を予定している。

【問】URやCMR、地元請負業者が一体となり復興工事を進めるうえで、行政の指導監督は。

CMRとの関わりについて

状況と対応は。

【答】（那須復興局長）



三浦 諭 議員

# 仮設住宅の空室利用の緩和を

## 県等への要望を引き続き行う

未広町災害公営住宅について

【問】災害公営住宅の入居時期や工事日程は予定通りであるか。また、入居要件について、震災前に未広町地区にお住まいであった方から優先的に入居できることを確認の意味も含めて伺う。

観点から仮申込み状況の結果を踏まえたうえで、現在採用している旧居住地区優先順位を優先枠として活用できるかを検討し、町営住宅入居者選考委員会に諮り、決定していきたくと考えている。

【答】（那須復興局長）  
現時点では、入居時期や工事日程の変更はないものと考えている。優先入居については、震災前のコミュニティを重視する



未広町災害公営住宅のイメージ図

各地区の消防屯所の建築と消防団員の確保について

【問】各地区の消防屯所の建設予定地と消防団員確保の取り組みは。

【答】（平野 総務部長）  
消防団員確保の取り組みは、ポスターや広報によるPR活動、役場職員の消防団への加入促進を図る防災研修の実施、消防団活動に協力している事業所等の優遇税制度の導入に



仮設の消防屯所

関する要望書を県に提出している。（屯所建設については、芳賀議員と同様の答弁）

仮設住宅の空室利用について  
【問】仮設住宅の空室利用について、帰省する家族が利用できるようにして

ほしいという声があるが、どのような対応ができるのか。また、本年4月より仮設住宅の利用緩和がされているが、町外からの転入に対する措置であり、町内からの入居は難しい状況にあるため改善できないものか。

【答】（佐々木民生部長）  
応急仮設住宅の提供は、災害救助法に基づいて運用しており、帰省による宿泊や罹災証明のない方の一時的な使用を認めることは非常に難しいところである。県等に対し空室利用や目的外使用に係る要件緩和の要望を引き続き行うなど、連携を密にして町民の要望にお応

えできるよう努めていきたい。

大槌町の人口減少について

【問】大槌町の人口問題について未婚者への様々な情報提供を行い、婚約相手を探す一助となるサービスを行うことも人口問題解決の一つではないかと考えるがいかがか。

【答】（内城総合政策部長）  
町としても、「まちコン」を5回開催し、若者の出会いの場を設ける取り組みを行ってきたところだが、今後人口問題対策本部において必要な対策を検討していきたい。

# 公営住宅の防音対策が必要では

## 再度別の周波数で調べる



阿部 俊作 議員

防災と防災大学校について

【問】防災大学の構想とは。

【答】（碓川町長）

防災大学校は、災害に備え、学生、町職員、自主防災組織のリーダーを対象に学校を設置し、災害のプロを全国に輩出するものである。

【問】震災対処訓練みちのくアラートの内容は。

【答】（平野総務部長）

当町では、11月7日に災害対策本部設置訓練を行い、自衛隊の捜索救助訓練には新町のグラウンド提供を予定している。

若者の定住支援策について

【問】若者定住支援策は。

【答】（内城総合政策部長）

【答】（平野総務部長）  
気象警報が出た場合、総務、生涯学習、環境整備の各課職員が参集し、情報収集、避難所開設、災害パトロールを行う。ハザードマップを再編集し全戸配付する。

6月に人口問題対策本部を立ち上げた。第二子以降の保育料減免、中学生以下医療費給付、就職支援（高校生）を実施。他市町村の事例も参考に若者定住対策に取り組む。

大ケロ公営住宅の完成検査について

【問】防音対策が必要ではないか。

【答】（那須復興局長）

昨年12月末、大ケロ町営住宅で隣の音が聞こえるという情報があり、音圧レベル測定を行った。結果、壁の遮音性能は大ケロ町営住宅36

1 dB、源

水住宅38

1 dBで基

準値35 dB以

上あり問題

ない。書類

検査、現場

検査をUR

都市機構が

実施し、建

築専門技術

職員が検収

検査行った。

【問】建築基

準法施行令

の技術基準

と違い、不

適合では。

「建築物の遮音性能基準と設計指針・第2版」日本建築学会編より

適用等級	透過損失	性能水準の説明
特級	55 dB	特別に高い性能が要求された場合の性能水準
1級	50 dB	建築学会が推奨する好ましい性能水準
2級	45 dB	一般的な性能水準
3級	40 dB	やむを得ない場合に許容される性能水準

（日本建築学会は適合する遮音性能40dBと定めている）

【答】（那須復興局長）

再度、他の周波数で調べる。

一次産業についての町の取り組みについて

【問】漁業学校の現況と成果、農地の集約化について尋ねる。集落構成も考えるべきと思うが。

【答】（大釜産業振興部長）

担い手確保、養成、町内着業支援策として、就業体験講座、本格養成講座、生産力向上講座を開催した。就業体験講座は県内外から10名。本格養成講座は3名。生産力向上講座は漁協定置網漁船乗組員8名が受講。「農地中間管理機構」制度が創設され、遊休農

地解消、就業促進、農地法人投資の円滑化を図られる。

【問】ふるさと科の目的は。また、郷土歴史の伝承は。

【答】（澤館教育部長）

「ふるさと科」は「生きる力」「ふるさと創生」を推進する特設領域として設定した。ふるさとを支える担い手の意義を中心に、町の歴史、産業、文化、自然等を学んでいる。郷土の歴史は総合的に発達段階に応じて学習している。

【問】内閣は集団的自衛権行使容認を決定した。愛国心（強要）や戦争を懸念するが。

【答】（伊藤教育長）

お互い支え合い、助け合うことが教育の基本。科学的に捉え、曲がった方に惑わされないように信念を貫いていく。



視察研修での集合写真

**釜石大槌地区  
行政事務組合**

金崎悟朗議員報告

去る7月28日に臨時会を開催し、会期は1日、付議事件3件はいずれも承認された。

主なものとして、財産の取得に関し議決を求めることについては、消防ポンプ自動車1台を332万4千円で買い入れることとしたものである。また、平成26年8月26日から27日にかけて、石巻市及び塩竈市へ議員行視察研修を行った。

**岩手県沿岸知的  
障害児施設組合**

東梅 守議員報告

去る6月9日に臨時会を開催し、会期は1日、付議事件1件は承認された。

岩手県沿岸知的障害児施設組合議長の選挙が行われ、宮古市選出の藤原光昭議員が選出された。

**岩手県後期高齢者  
医療広域連合**

阿部義正議員報告

去る7月15日に臨時会を開催し、会期は1日、付議事件4件はいずれも承認された。

主なものとして、岩手県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任については、民部田幾夫副広域連合長の任期が本年5月31日をもって満了となったことから、同氏を再び副広域連合長に選任したものである。

次代を担う子供たちと編集委員との交流



とても楽しかったよ！みんなありがとう♪

26年9月8日、議会報編集特別委員のみなさんが訪問され、子供たちと交流しました。3歳から5歳児の子供たちと一緒に給食を食べ、その後は手品の披露もあり、みんな驚きながらも楽しそうにしています。

26年10月4日には、運動会が開催されました。天気にも恵まれ、子供たちは元気いっぱい校庭を走りまわっていました。表紙の写真は運動会の様子です。現在は、寺野地区の仮設の保育所で、園児35名過ごしています。今後も、安渡保育所をよろしく願います。(安渡保育所)



一緒に給食を食べたよ！

★タイトル作成者★



わたなべのぞみ 渡邊望海くん(6歳)

表紙の「おおつち」を書いてくれた安渡保育所の望海くんです。上手に書いてくれてありがとう。

★次回の訪問予定★

次号は、12月中旬に「大ケ口保育園」の予定です。

編集後記

▼四季の移り変わりと共に地域の行事も次々と行われる中、復興の進捗に歯がゆさを感じながら「実りの秋」。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」作者不詳の俳句？川柳？

『二方は「これで十分だ」と考えるが、もう一方は「まだ足りないかもしれない」と考える。そうしたいわば紙一枚の差が、大きな成果の違いを生む』

「松下幸之助」今更ながらに三年を振り返りながら、前述した二つの言葉の意味を肝に銘じ、残り1年足らずとなった議員の任期を、誠心誠意、勤めたいと感じるこの頃である。

(芳賀 潤)

議会報編集特別委員会

委員長 金崎悟朗

副委員長 三浦 諭

委員 芳賀 潤

委員 東梅 守

委員 阿部俊作